

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

先月中旬から急に寒くなってきました。平野部での初雪もすでに観測され、平年より24日早く、今シーズンでは全国で一番早かったそうです。風邪の患者さんの増えてきました。今回は骨粗鬆症の話ではなく、風邪について少し話しをしたいと思います。

以下のような会話がたまにあります。「先生、風邪を引いたから抗生物質を出してください。」「風邪に抗生物質は効きませんよ。」「でも、A病院でもらった風邪薬で治らなかったの、B病院で抗生物質を出してもらったら治りました。」「そもそも風邪薬は風邪を治す薬ではありません。」

抗生物質が効く仕組み（作用機序）は一つではありませんが、代表的なものに細胞壁の破壊があります。多くの細菌の一番外側は細胞壁です。この細胞壁を壊すことで細菌をやっつけるのです。風邪の原因の多くは細菌感染ではなくウイルス感染です。ウイルスには細胞壁はありませんから、抗生物質を飲んでも細菌をやっつけることはできないのです。私が医者になり立ての頃には、すでに風邪に抗生物質は効かないということはもちろんわかっていたのですが、肺炎などの二次感染予防に抗生物質は使った方が良くもあるという考え方がありました。

では本当に二次感染予防になるのでしょうか。調べたところ、抗生物質を飲んで肺炎に罹るのを防げた方は二千人に一人という報告もありました。二千人に一人しか効きませんが、この薬を飲んでみますか？と医者から言われたら、その薬を飲みたいと思いますか？絶対に不要ということではありません。溶連菌やマイコプラズマなど、抗生物質が必要な場合もあります。その判断（診断）をするのが医者の仕事で、そのために検査があるのです。※最近では抗生物質という言葉は使われず、抗菌薬や抗微生物薬と言われるようになってきていますが、抗生物質という言葉の方が認知度が高いので、本文では抗生物質という言葉を用いています。